

あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 7 月 1 6 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台 7 月 10 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は高い見込みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。

イネいもち病

7 月上旬の巡回調査の結果、葉いもちの発生量は平年並の状況です。また、BLASTAM によるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、7 月 2 日に稲武で感染好適日が出現していますので、山間地域では、ほ場での発生状況に注意しましょう。

斑点米カメムシ類

7 月上旬の巡回調査の結果、斑点米カメムシ類の捕獲虫数は、水田内及び畦畔雑草で過去 10 年間と比較して 2 番目に多い状況です。詳細は、本日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 4 号」を参照してください。

トビイロウンカ、セジロウンカ

トビイロウンカは、7 月上旬までに巡回調査及び予察灯において発生を確認していません。詳細は、本日発表の「ウンカ類情報第 2 号（トビイロウンカ）」を参照してください。

セジロウンカは、7 月上旬の巡回調査で、91 ほ場中 24 ほ場で発生を確認し、発生量は平年並です。予察灯では、7 月第 1 半旬から第 2 半旬にかけて、長久手市で 18 頭、弥富市で 8 頭、大口町で 2 頭が誘殺されており、長久手市及び弥富市の誘殺数はやや多い状況です。

トビイロウンカとセジロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差が大きいので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。

ニカメイガ

弥富市、安城市、岡崎市において、ニカメイガによる水稻の被害が目立つほ場が確認されています。今後、次世代による被害が多発するおそれがあります。本害虫による被害が多発した場合、心枯れ茎や白穂となる株が増加し、ひどい場合は白穂被害の多発による減収を引き起こすこともあります。7 月 2 日発表の「ニカメイガ情報第 1 号（水稻）」を参考に防除しましょう。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市及び弥富市においてやや多い状況です。詳細は本日発表の「ハスモンヨトウ情報第 1 号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照して下さい。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市及び西尾市で多い状況です。詳細は本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第 1 号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照して下さい。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市、碧南市、豊田市で多く、稲沢市でやや多い状況です。7 月 2 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 3 号」を参考に、防除を実施しましょう。

果樹の病害

すでに収穫に入っている作物、品種があります。農薬散布にあたっては、当該ほ場だけでなく、周辺のほ場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬のドリフトに十分注意してください。モモせん孔細菌病は、この時期に形成される夏型枝病斑から活発に病原菌が増殖、漏出します。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬病原菌量を増やさないためにも、収穫後の防除を行いましょう。

果樹カメムシ類

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。また、8月上旬発表予定の「果樹カメムシ情報第3号」で、7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載する予定ですので、参考にしてください。

クビアカツヤカミキリに注意！

尾張地域でクビアカツヤカミキリの発生を確認しています（図）。本虫は幼虫がモモやウメ、サクラなどに寄生し、樹木内部を食害し、樹の衰弱、枯死を引き起こします。

6月から8月に成虫が発生し、産卵します。7月2日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考にして薬剤防除しましょう（収穫中の場合は収穫前日数に注意してください）。クビアカツヤカミキリ成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。

また、果樹園で成虫や被害を見つけた場合は、病虫害防除室またはお近くの農業改良普及課までお知らせください。

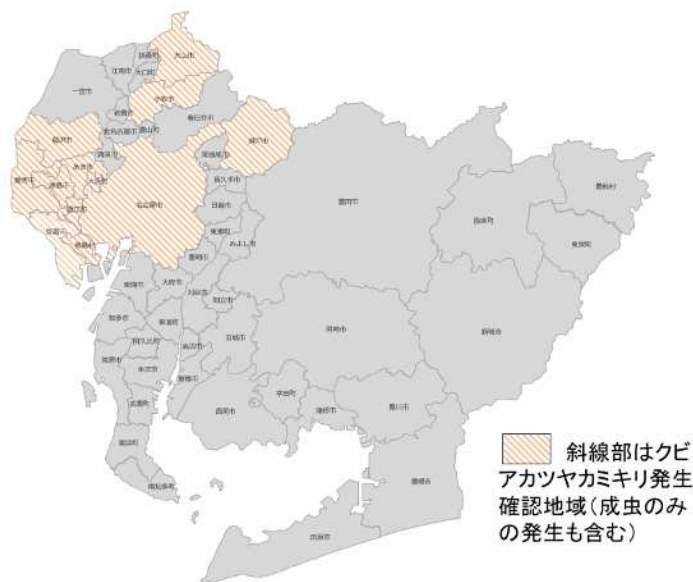


図 クビアカツヤカミキリ発生地域

チャノキイロアザミウマ

カンキツほ場における本種の黄色粘着トラップにおける誘殺数は、蒲郡市でやや多い状況です。また、**南知多町で6月第6半旬から7月第1半旬にかけて急増しています**。今後の発生状況に注意してください。また、ブドウほ場における本種の誘殺数は豊橋市で平年並、東浦町でやや少ない状況です。本種の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（次表）を参考に防除を行いましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/4	7/6	6/30	7/2	7/4	7/4	7/3	7/3	7/5	7/4	第2世代	7/5
第4世代	7/20	7/23	7/17	7/19	7/21	7/21	7/20	7/21	7/23	7/21	第3世代	7/25
(前年)	7/21	7/23	7/17	7/19	7/21	7/21	7/20	7/19	7/24	7/19	(前年)	7/26
前年差	1日早	±0	±0	±0	±0	±0	±0	2日遅	1日早	2日遅	前年差	1日早

各地のアメダス平均気温から予測。7月16日までは実測値を、それ以降は平年値から+1.8℃補正した値を用いて計算。補正值は気象庁発表の向こう1か月の気温予測データを参考にした。

前年の第4世代（稲武は第3世代）は前年気温の実測値を用いて計算。

ナシヒメシンクイ

6月下旬に実施した巡回調査において、モモのナシヒメシンクイによる被害新梢率は平年並でしたが、フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数は、やや多い状況です。今後、ナシにおいても被害が発生するおそれがありますので注意しましょう。

ブロッコリー黒すす病

一部地域で多発しています。本病の生態や防除対策については、本日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照して下さい。

イチゴ炭疽病

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。育苗期間は薬剤による予防的防除を行い、ほ場での発生に注意しましょう。発病株を発見した場合、発病株周辺にある株も罹病している恐れがあります。発病株とその周辺にある株を処分しましょう。また親株で発生した場合は、その親株から生長したランナー及び子株も処分しましょう。

トマトキバガに注意！

フェロモントラップにおいてトマトキバガが昨年よりも早い時期に多く誘殺されています。詳しくは本日発表の「トマトキバガ情報第1号（トマト）」を参照してください。

トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病や黄化病のウイルスを媒介する恐れのある、タバココナジラミやオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。育苗時におけるウイルス病の感染防止のため、コナジラミ類に効果のある農薬を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820